

北海道大学病院女性医師等就労支援室 における男女共同参画事業

北海道大学病院女性医師等就労支援室
特任助教 清水薫子

平成28年度 日本医師会 女性医師支援センター
大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会
—よりよい男女共同参画を目指して—

北海道大学病院女性医師等就労支援

- ▶ 平成22年度～平成25年度
「北海道大学病院女性医師等就労支援事業」施行

- ▶ 平成26年度～
「北海道大学病院女性医師等就労支援室」開室
室長：内科Ⅱ教授 渥美達也、
室員：内科Ⅱ講師 西尾妙織、
女性医師等就労支援室/内科Ⅰ特任助教 清水薰子

北海道大学病院女性医師等就労支援

現役医師とのおしゃべりの会



講演会

おしゃべりの会

相談窓口

ホームページ



- ▶ 相談窓口
- ▶ 復職支援・人材育成・啓発活動
- ▶ 育児支援

育児短時間勤務
医員枠

すくすく育児支援プラン (育児支援のための医師)

当院の医師を中心とした育児支援の一環として、短時間勤務スタイルに置きかえるための新たな医員枠を創設しました。立派な勤務とは女性医師向け短時間勤務です。



連絡云々

復職支援

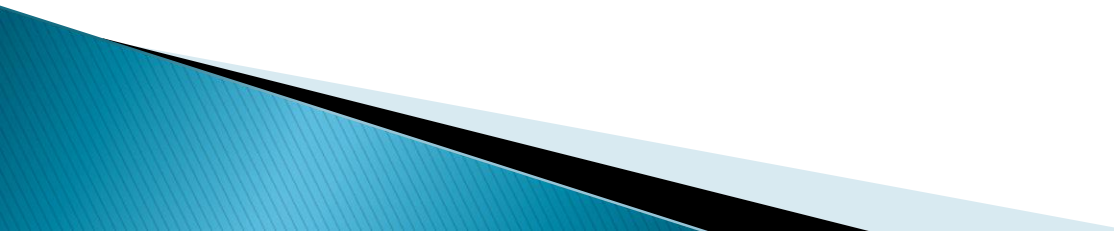
病後児保育室ぶらん



- ▶ 北海道大学病院医師へのアンケート結果から見た病児保育の必要性
- ▶ 北海道大学医学部学生へのアンケート結果から見た次世代のワークライフバランス

- ▶ 北海道大学病院医師へのアンケート結果から見た病児保育の必要性
- ▶ 北海道大学医学部学生へのアンケート結果から見た次世代のワークライフバランス

医師・看護師アンケート

- ▶ 北海道大学病院保育施設の現状ならびに問題点の把握
 1. 北海道大学病院附属ポプラ保育園の拡大の必要性
 2. 北海道大学病院附属病後児保育室ぶらんの現状と病児保育への拡大の必要性
- 

医師・看護師アンケート

- ▶ 北海道大学病院保育施設の現状ならびに問題点の把握

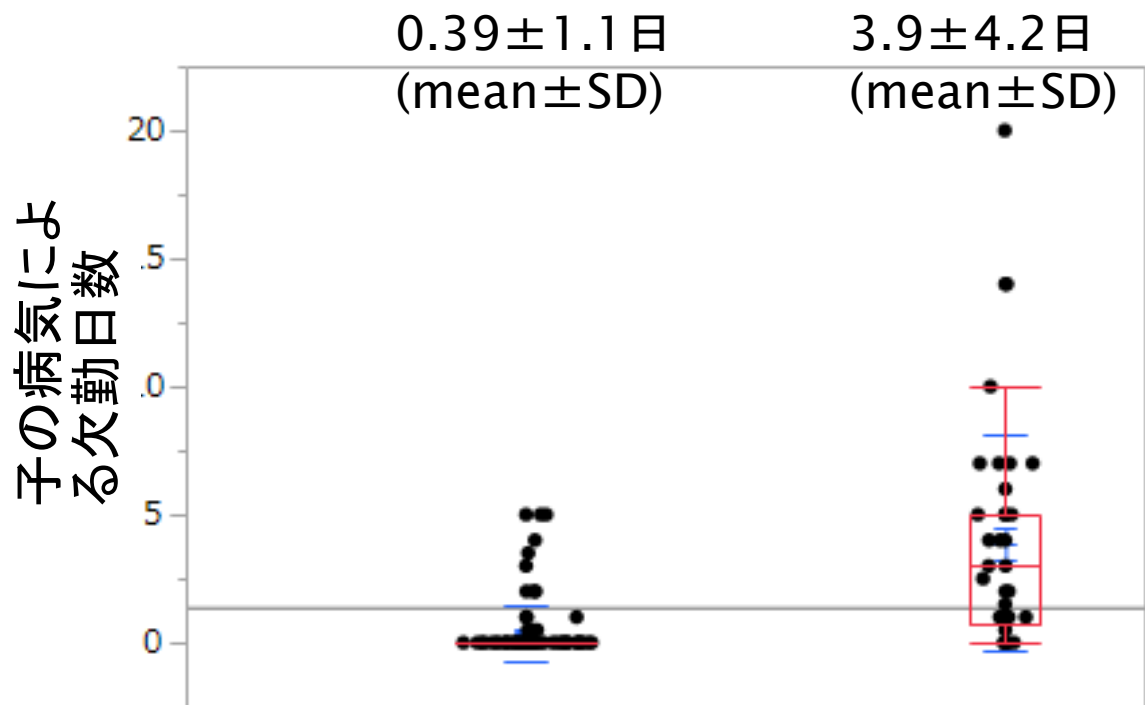
医師側：

調査用紙配付：平成28年2月8日

回収：平成28年2月19日

方法：各診療科が把握している15歳未満の子供を持つ職員数を報告してもらい同数のアンケートを配付した。
結果、対象者数327名、回答数175名（男性121名、女性50名）であり回答率は54%

医師におけるアンケート調査



1. 男性(N=121) 2. 女性(N=50)

男性医師の10%が1日以上
の欠勤をしている。
女性医師の半数が3日
以上の欠勤をしている。

子の病気の際には女性医師の勤務中断が多い。

女性医師の欠勤を減らすためには??

病後児保育室 ぶらん



病気の回復期に入ったお子様が、集団生活はまだと感じる時などに、専門の看護師や保育士のいる保育室で、ゆったりと無理なく体力を取り戻せるよう、安心して過ごしていただくための病後児保育室です。

◆保育内容

保育日	月曜日～金曜日（年末年始12/29～1/3 祝日除く）
保育時間	7時30分～18時30分
対象年齢	生後6ヵ月から小学校6年生まで
利用対象者	北海道大学病院の教職員 （診療に従事する研究科等に所属する教職員・大学院生等を含む）
定員	4名（生後6ヵ月から満1歳未満の乳児は1日1名まで）

◆利用料金

日額	2500円
半日（4時間未満）	1500円

* 保育料は利用当日中に「医事課収入係⑫番窓口」でお支払いください。



ぶらん利用者の感想

- ▶ スタッフの方々は本当に親切で、どうしたら親が働きやすくなるか、どうしたら子供が過ごしやすいのかというところまで考えて下さり、とても心強いです。普段の集団保育では体験できない、ほぼマンツーマンでじっくり関わっていただけることや、迎えに行ったときに育児のアドバイスをもらえたことなど、貴重な場であると感じました。記録もしっかりと残してもらえるので、すごく安心できます。(30代・看護師)

ぶらんの利用実績

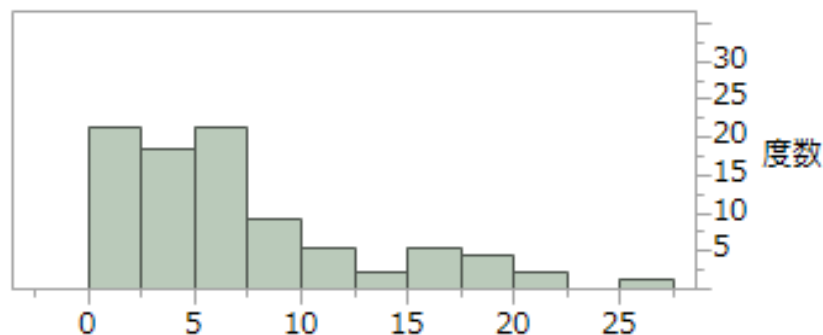
- ▶ 1日平均利用人数:
- ▶ 平成22年度0.33人(2,3月)
- ▶ 平成23年度0.54人
- ▶ 平成24年度0.61人
- ▶ 平成25年度0.66人
- ▶ 平成26年度0.85人
- ▶ 平成27年度1.13人
- ▶ 平成28年度1.46人(6月まで)



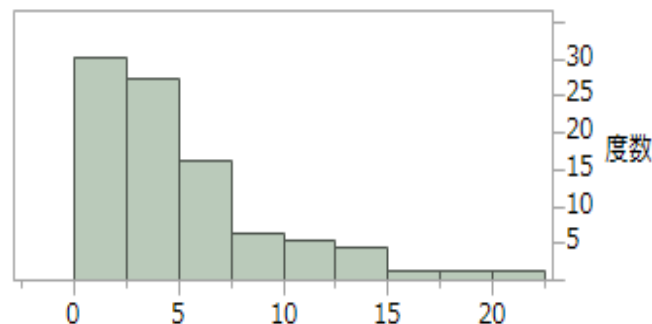
病児保育の必要性

平成28年度ぶらん登録者アンケート(有効回答数
96人、回答率79%)

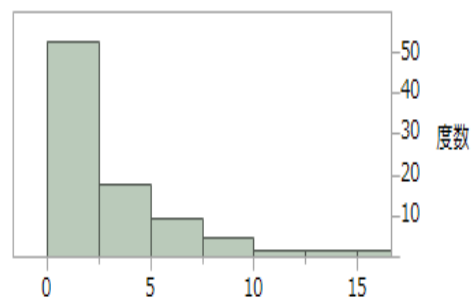
- ▶ 病後児保育がない場合
の予想欠勤日数/1年



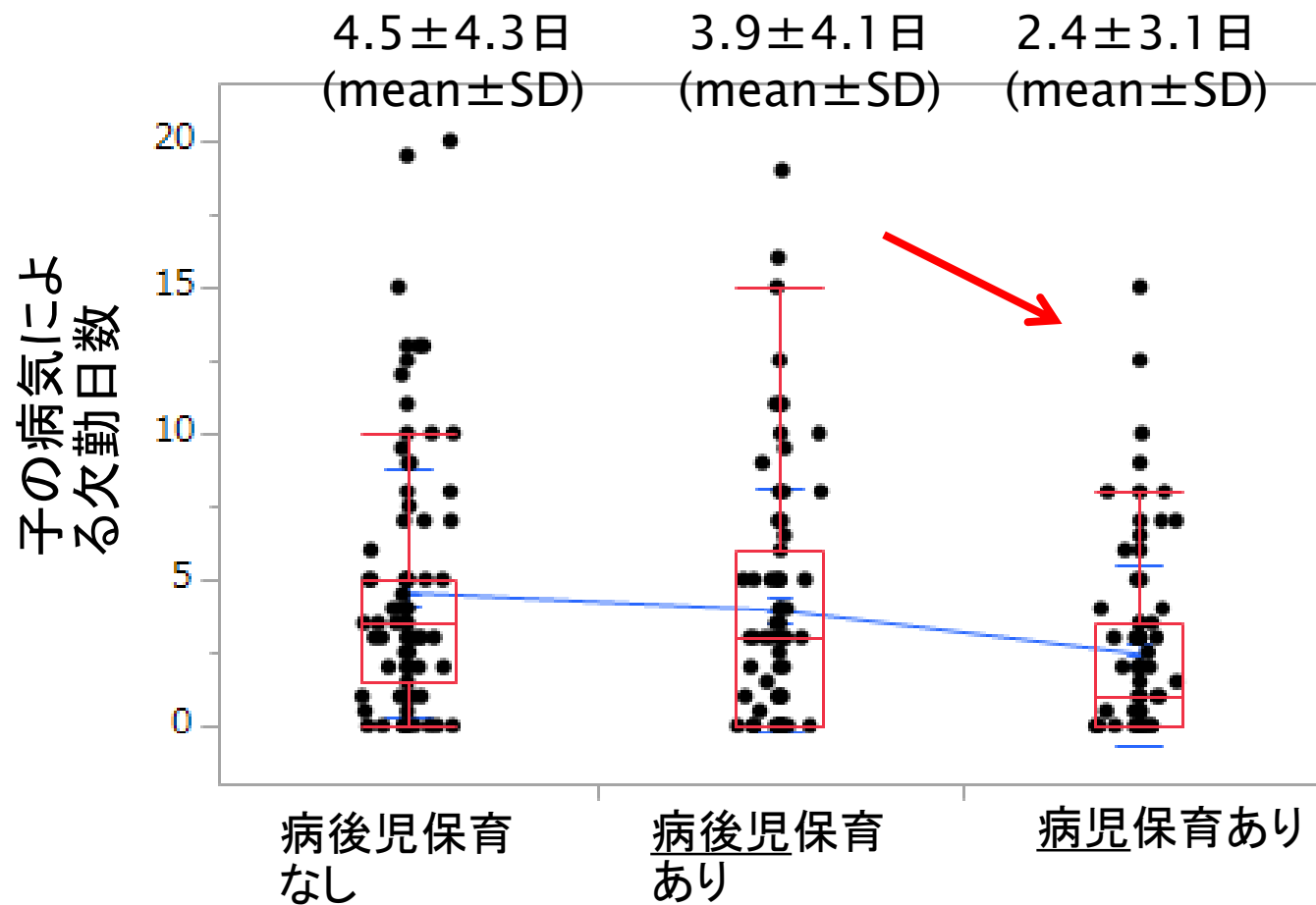
- ▶ 病後児保育の存在下
での子供の病気が原因
での欠勤日数/1年



- ▶ 病児保育ができた際
の予想欠勤日数/1年



病児保育の必要性



-0.6日

さらに-1.5日

育児サポート

「育児と仕事の両立を目指したい！」
を応援します



北海道医師会 女性医師等支援相談窓口

事業の仕組み

地域別 支援内容のご案内

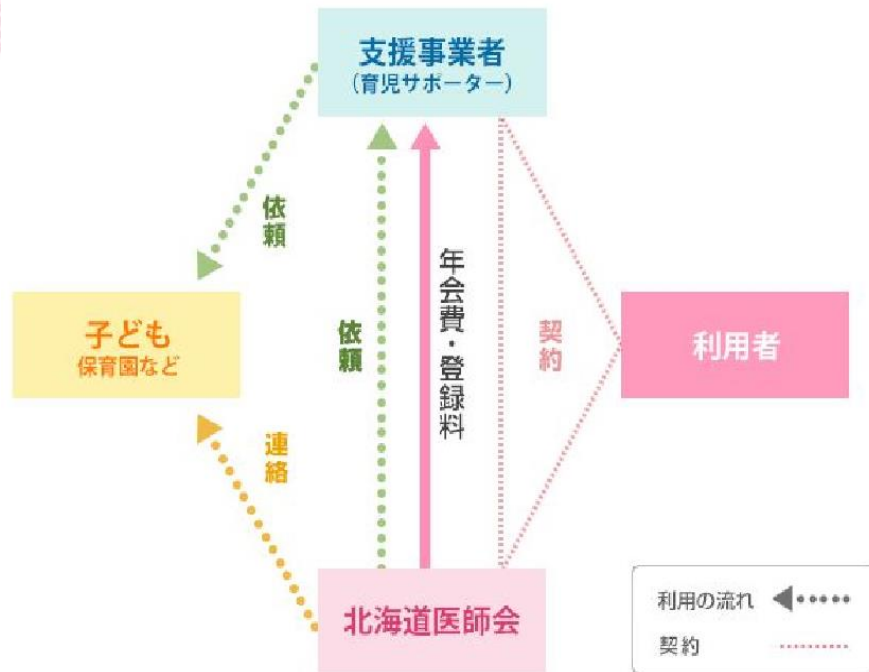
ご利用の地域の色ボタンをクリックすると、地域別の育児支援サービスについてご覧頂けます。

青色の地域

みどり色の地域

きいろの地域

ピンク色の地域

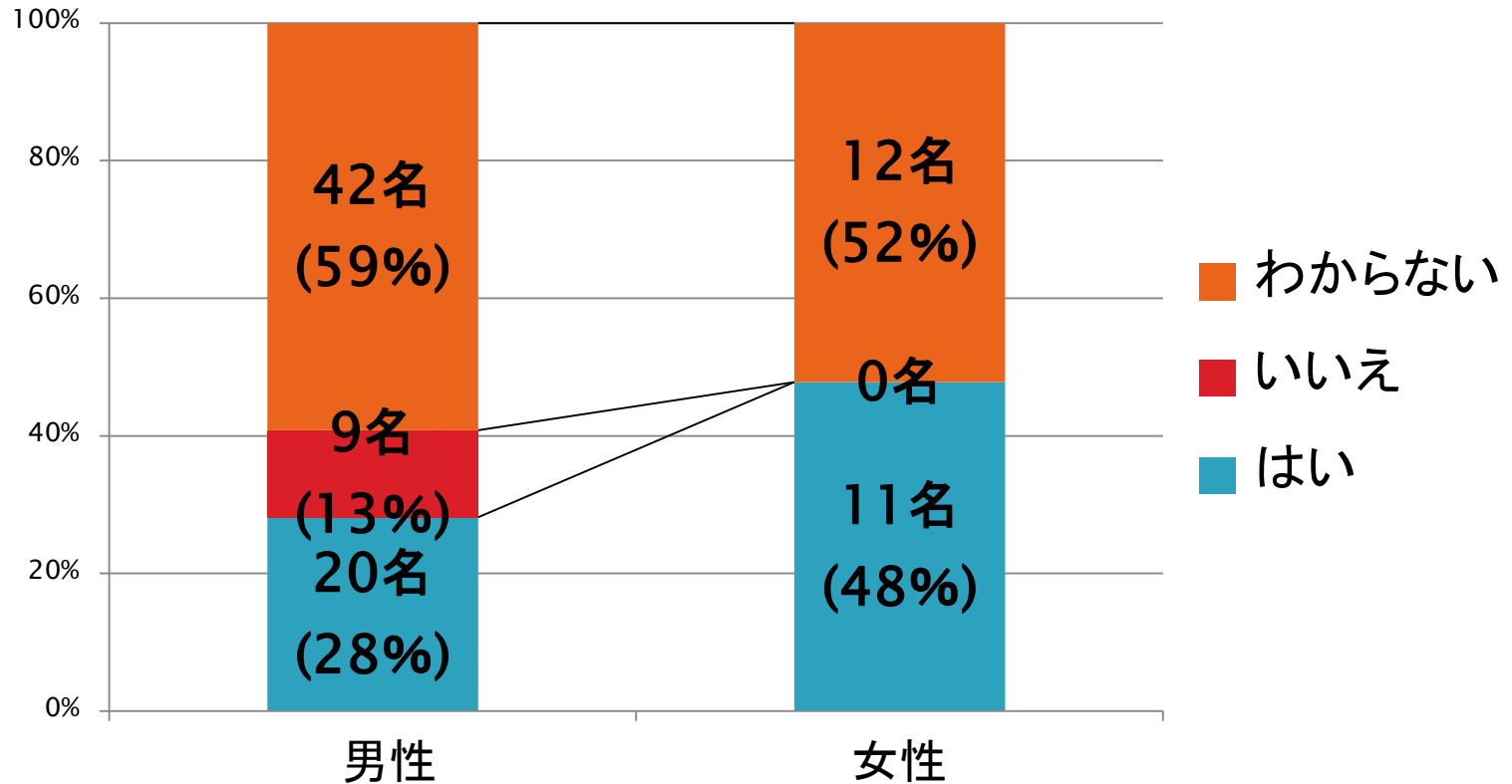


これで解決するでしょうか？

- ▶ 北海道大学病院医師へのアンケート結果から見た病児保育の必要性
- ▶ 北海道大学医学部学生へのアンケート結果から見た次世代のワークライフバランス

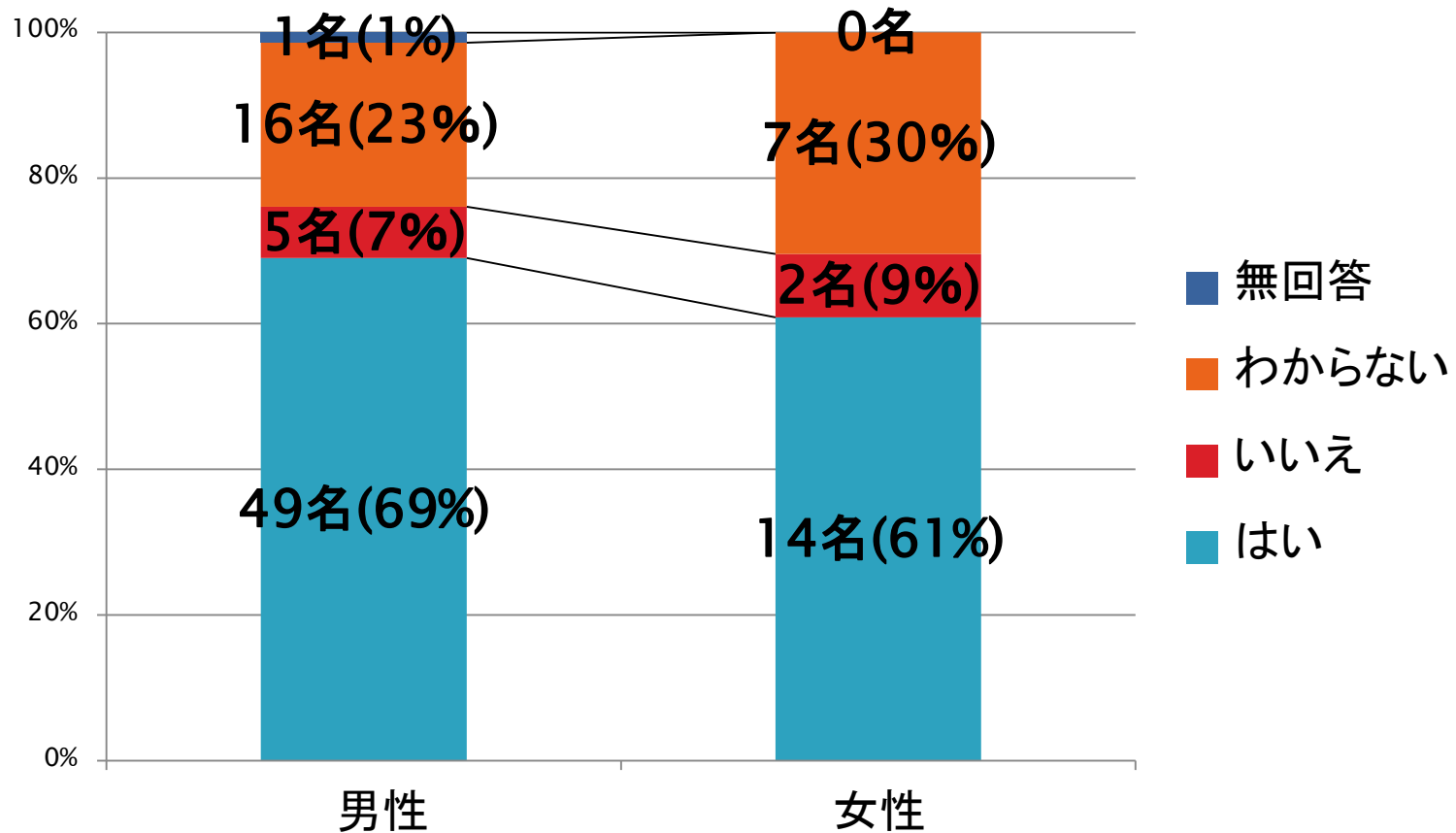
北海道大学医学部2年生 ワークライフバランス に係る授業におけるアンケート結果

将来育休をとるつもりですか？



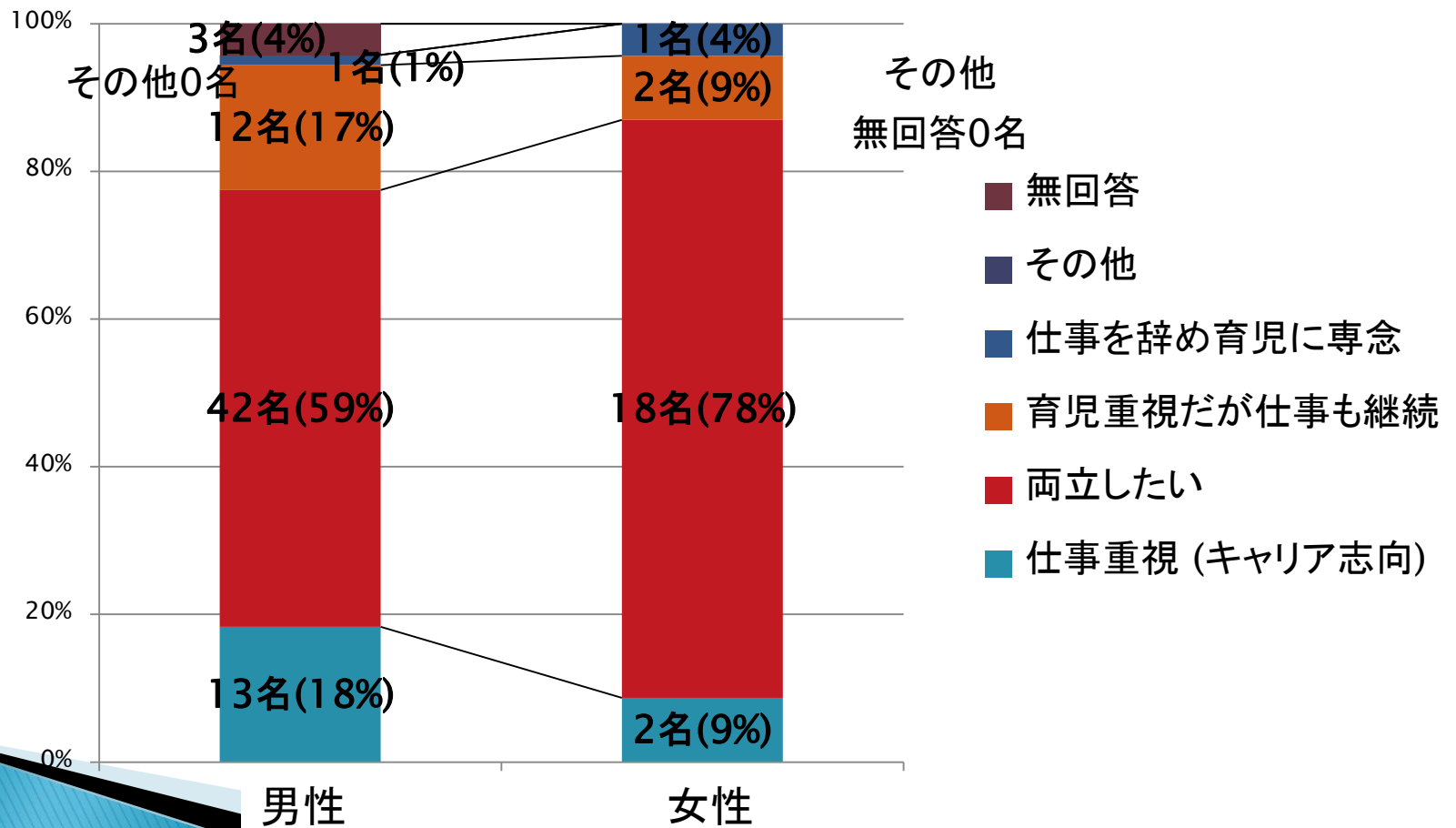
北海道大学医学部2年生 ワークライフバランス に係る授業におけるアンケート結果

将来結婚・育児を前向きに考えていますか？



北海道大学医学部2年生 ワークライフバランス に係る授業におけるアンケート結果

将来結婚・育児をする場合どのようなライフスタイルを選びたいですか？



まとめ

- ▶ 次世代は男性も育児休暇を希望し、男女ともに仕事と家庭のバランスを重視する傾向がある。
→ 全職員の勤務体系の改革が必要

一方、ワークライフバランスをとりながら・・・

- ▶ 地域偏在、専門分野偏在の医師不足があるなかで、社会(患者)に対する医師の責任をどのように果たすか。
- ▶ 給与体系はどのように評価されうるか。

やりがいのある医師という職業につく次世代が長く充実して勤務できる環境・システムの構築！



医療の質の保持！